学位論文の要約

本研究は，ベンチャー企業の出資主体がベンチャー企業に与える影響について，出資主体が保有する制度ロジック及び経営資源に基づき検討をしたものである。本研究の主な課題は，先行研究で十分に考察されていない事業会社が与える影響について確認をすることである。また，ベンチャー企業は複数の出資主体と関係を持つことが多いため，制度ロジック多元性下においてベンチャー企業が出資主体よりどのような影響を受けているのかを明らかにすることを目的とする。

本研究が分析対象としているのは，日本において設立されたベンチャー企業である。出資主体による影響について，多くの先行研究で考察が行われているものの，海外における実証研究が非常に多い状況である。日本市場に特化して考察をしている先行研究は非常に限られる。本研究で特に注目する出資主体である事業会社は，日本市場において非常に影響力がある存在であり，事業会社による影響を定量的に明らかにすることはイノベーションマネジメント分野において意義のあるものと考える。

まず，起業家自身の利益確保などの観点において選好される傾向があり先行研究においても出口戦略として非常に注目されている IPO に対して，出資主体が与える影響について考察を行う。各出資主体による出資金額比率をベンチャー企業に与える影響度合いとみなし，各出資主体がベンチャー企業の IPO に与える影響を確認する。その上で，ベンチャー企業の解散・消滅に与える影響，IPO もしくは M&A という出口戦略に与える影響について確認を行うこととする。各イベントが発生するまでの期間を生存期間とし，出資主体の存在により生存期間がどのように変化するのかについて確認する。

本研究のアプローチとして，最小二乗法による重回帰分析，及び，Cox 比例ハザードモデルを定量研究の手法として採用する。IPO 前後における出資主体がベンチャー企業に与える影響に対する考察においては，最小二乗法による重回帰分析を使用する。被説明変数を IPO 前後のベンチャー企業への成長に関するデータを採用することにより，各出資主体による影響を明らかにするものである。ベンチャー企業の生存及び出口戦略に関する考察においては，Cox 比例ハザードモデルを使用する。出資主体の状況の違いにより，解散・消滅，IPO, M&A が発生するまでの時間にどのような影響が及ぼされているのかを明らかにする。

本研究の主な貢献は，以下の 2 点である。第一に，事業会社が出資主体としてベンチャー企業に与える影響について確認を行ったことである。先行研究では明らかにされていない事業会社が出資主体としてベンチャー企業に与える影響を明らかにした。事業会社という存在に注目しその影響を明らかにしたことは，イノベーションマネジメント分野における実務的貢献と考える。第二に，複数の出資主体が存在することによる制度ロジック多元性により及ぼされる影響について，組織単位の制度ロジックだけはなく，各イベントに対する制度ロジックという視点を追加し議論を行った。制度ロジック多元性の研究において新たな視点を付加するものであり，理論的貢献があるものと考える。